

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成18年7月27日(2006.7.27)

【公開番号】特開2001-19606(P2001-19606A)

【公開日】平成13年1月23日(2001.1.23)

【出願番号】特願平11-191154

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/30 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/00 C

A 6 1 K 7/00 B

A 6 1 K 7/00 U

A 6 1 K 7/48

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月13日(2006.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

使用時に複数の剤を混合する形態の化粧料であって、酸性物質、並びに該酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物を、該酸性物質と該金属酸化物及び/又は金属水酸化物との間の中和塩形成反応が起こらない形態で含むことを特徴とする、化粧料。

【請求項2】

酸性物質を含む第1剤及び該酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物を含む第2剤が混合されていない形態を有し、かつ第1剤及び第2剤の少なくとも一方が水を含むことを特徴とする、請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】

酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物が、酸化亜鉛及び/又は酸化マグネシウムであることを特徴とする、請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】

酸性物質が、クエン酸及び/又はその塩であることを特徴とする、請求項1～3の何れか一項に記載の化粧料。

【請求項5】

パック料であることを特徴とする、請求項1～4の何れか一項に記載の化粧料。

【請求項6】

使用時にガスを用いずに発泡させることを特徴とする、請求項1～5の何れか一項に記載の化粧料。

【請求項7】

使用時に温感を有することを特徴とする、請求項1～6の何れか一項に記載の化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題の解決手段】

本発明者らは、このような状況に鑑みて、充分且つ適切な熱量を発生し、心地よい温感を有する化粧品を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、酸性物質、並びに該酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物を、使用時に混合して反応させる形態の化粧品にその様な特性を見だし、発明を完成させるに至った。以下、本発明について、実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【発明の実施の形態】

(1)本発明の化粧料の必須成分である金属酸化物及び/又は金属水酸化物

本発明の化粧料は後述する酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物を含有することを特徴とする。このような金属酸化物及び/又は金属水酸化物としては、例えば、両性物質である金属酸化物や金属水酸化物が挙げられる。ここで、両性物質とは、金属酸化物及び/又は水酸化物であって、酸とも塩基とも反応し、塩を形成する物質のことを意味し、例えば、水酸化アルミニウム、酸化アルミニウム、水酸化亜鉛、酸化亜鉛等が例示できる。また本発明では、酸化マグネシウム、水酸化マグネシウム等も好ましく用いることができる。これらの中で特に好ましいものは化粧料の分野で長年にわたる使用実績のある、酸化亜鉛及び/又は酸化マグネシウムであり、この2者では酸化亜鉛が特に好ましい。これは、その使用実績により使用上の安全性が既に確認されているからである。本発明に於いて使用される酸化亜鉛は、通常化粧料で使用されているものであれば特段の限定はないが、熱発生特性から1 μ m以下の微粒子のものであることが好ましい。これは、表面積が大きく、反応がスムーズに進行するので、適切な温度を得られるからである。本発明の化粧料に於いて、酸性物質と中和塩形成反応をする金属酸化物及び/又は金属水酸化物の好ましい含有量は、使用直前の形態に於いて、1~20重量%であり、更に好ましくは5~15重量%である。これは、両性物質が少なすぎると発生する熱量が充分ではない場合があり、多すぎると熱くなりすぎる場合があるからである。前記範囲に於いて快適な熱量が得られるのである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(2)本発明の化粧料の必須成分である酸性物質

本発明の化粧料は、上述した金属酸化物及び/又は金属水酸化物と中和塩形成反応をする酸性物質を必須成分として含有する。本発明で使用できる酸性物質としては、前記金属酸化物及び/又は金属水酸化物と反応し塩を形成するものであれば、特段の限定無く使用することができ、例えば、希塩酸等の希薄鉱酸及び/又は塩の溶液やクエン酸及び/又はその塩の溶液等が好ましく例示できる。この中では、刺激発現が極めて少ないことからクエン酸及び/又はその塩乃至はその溶液を用いるのが特に好ましい。又、クエン酸及び/又はその塩を使用することにより、熱の発生も心地よいレベルにコントロールすることが

可能である。本発明の化粧品に於ける、これら酸性物質の好ましい含有量は、使用直前の形態に於いて、1～10重量%であり、更に好ましくは2～8重量%である。これは少なすぎると、熱発生量が少なすぎ心地よさが発現しない場合があり、多すぎると熱くなりすぎたり、過剰な酸による刺激が発現したりする場合があるので、前記範囲がこのまじいのである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(3)本発明の化粧品

本発明の化粧品は、酸性物質と該金属酸化物及び/又は金属水酸化物との間の中和塩形成反応が起こらない形態で含有することを特徴とする。これは、例えば両者が溶液形態で混合していると、使用前に中和塩形成反応が起こってしまい、使用時に発熱せず、温感が得られないからである。従って、本発明の化粧品は少なくとも2剤からなる、多剤タイプの化粧品であり、用時にこれらの構成成分を一様に混合して使用する形態をとる。この様な形態としては、1)酸性物質と金属酸化物及び/又は金属水酸化物とを水の介在しない剤形で存在させ、使用時に水を含む組成物を加えて使用する方法や2)酸性物質と金属酸化物及び/又は金属水酸化物とを別々の剤形のものに含有させ使用時にこれらの剤形ものを混合して使用するもの(但し、水分は片方もしくは両方の剤形に存在する。)等が考えられる。使用勝手としては、酸性物質を含む第1剤と金属酸化物及び/又は金属水酸化物を含む第2剤の2種の組成物からなる2剤形のものであって、これらの組成物の少なくとも一方が水溶液であるような形態が、速やかに組成物全部で反応が起こるので特に好ましい。又、化粧品としては、温感効果が必要な、或いは好ましい種類の化粧品であれば特段の限定はされずに適用することができ、パック化粧品やマッサージ化粧品などが好適に例示できる。この中では、パック化粧品が特に好ましい。更にパック化粧品としては、フォーム状のものが断熱効果が高いので、本発明の適用対象としては特に好ましい。環境行政上、ノンガスタイプであると更に好ましい。この様なノンガスタイプのものとしては、用時に炭酸塩と酸性成分とを混合させて炭酸ガスを発生させるような剤形のもの好ましく例示できる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明の化粧品では、上記必須の成分以外に、通常化粧品で使用される任意成分を含有することができる。この様な任意成分としては、スクワラン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素類、ホホバ油、カルナウバワックス、オレイン酸オクチルドデシル等のエステル類、オリーブ油、牛脂、椰子油等のトリグリセライド類、ステアリン酸、オレイン酸、リチノレイン酸等の脂肪酸、オレイルアルコール、ステアシルアルコール、オクチルドデカノール等の高級アルコール、スルホコハク酸エステルやポリオキシエチレンアルキル硫酸ナトリウム等のアニオン界面活性剤類、アルキルベタイン塩等の両性界面活性剤類、ジアルキルアンモニウム塩等のカチオン界面活性剤類、ソルビタン脂肪酸エステル、脂肪酸モノグリセライド、これらのポリオキシエチレン付加物、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤類、ポリエチレングリコール、グリセリン、1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、増粘・ゲル化剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、色剤、防腐剤、粉体等を好ましく例示することができる。これらの任意の成分の内、特に好ましいものは水との混合時に熱を発生

するグリセリン、ポリエチレングリコール、1,3-ブタンジオール、ジプロピレングリコール、ジグリセリンなどの多価アルコールであり、中でもポリエチレングリコールが好ましく、ポリエチレングリコールでは平均分子量が100~600のものが特に好ましい。その好ましい含有量は、使用直前の形態に於いて、30~70重量%であり、更に好ましくは40~60重量%である。又、前述の炭酸塩と酸性成分の反応型ノンガスタイプ化粧品に於いては、炭酸ナトリウムや炭酸水素ナトリウムの様な炭酸塩を0.5~10重量%、更に好ましくは1~5重量%含有することが特に好ましい。本発明の化粧品は、これら必須の成分と任意成分とを常法に従って処理することにより製造することができる。